多賀工業会
東京支部会報

2002年 8月　第5号

巣鴨の「とげぬき地蔵」　平成14年5月編集部撮影

2002年　第5号　目 次

表紙説明 ……表2

報　告

第22回東京支部総会開催のご案内 ……1

東京支部長挨拶（第21回総会に当って） ……1

第21回東京支部総会報告 ……近江 義勝 ……2

平成13年度東京支部会計報告 ……3

平成14年度東京支部予算案 ……編集部 ……3

平成14年度多賀工業会（本部）総会の報告 ……16

回　想

槌田先生の想い出 ……柳沢　裕 ……4

スコットランドの思い出 ……佐々木 秀朗 ……6

随　筆

明日はないさ ……藤田 史朗 ……7

地域社会のパソコンボランティアに参加して ……小池 健一 ……8

じじバカ孫の成長雑感あれこれ ……国井 栄次 ……10

資源と環境 ……照沼　清 ……12

人生とは妙にして愉快なもの ……坂本 俊雄 ……13

霞ヶ浦湖畔での雑念 ……菅谷 禎男 ……14

山へのあこがれ ……三本木 武 ……15

記　事

第2回多賀いちょう会ゴルフ大会 ……幸道 貞一 ……18

囲碁同好会その後の推移 ……山下 正明 ……19

お願い

覚えている方はお教えください ……5

支部めぐり

千葉支部は年2回の会報発行で活動強化はかる ……三幣 正人 ……2

平成13年度年会費納入者 ……20

編集後記 ……21

広告 ……表紙4

表 紙 の 説 明

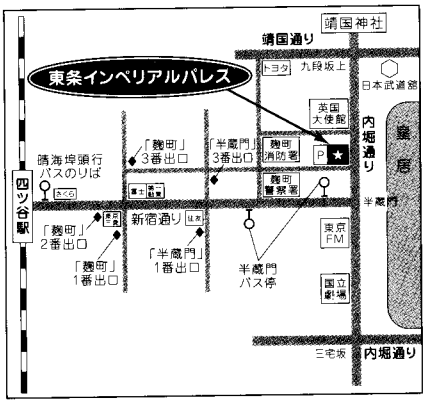
「おばあちゃんの原宿」といわれている巣鴨地蔵通りにある高岩寺は「とげぬき地蔵」と呼び親しまれて、高齢者が大勢参拝に訪れている。自分の病んでいる箇所を、お地蔵さんに水を掛け清めると御利益があるといわれ、平日でも行列が出来るほどである。境内には、有名な耳かきの店があり愛用者も多いといわれている。商店街は、生活雑貨用品が中心で、半天やモンペなどが並び、高齢者の「人出が多く、にぎわいがあり元気が出る」といっていた。巣鴨は今や高齢者の癒しの場といった感がある。

表紙の題字は杉山 六郎会員（昭24専舶）

第22回 多賀工業会東京支部総会開催のご案内

1.日　時　平成14年10月19日（土）午後3時から

2.場　所　東條インペリアルパレス（右図参照）
東京都千代田区麹町1-12
電話 03-3265-5111
交　通：営団半蔵門線半蔵門駅下車3番出口より徒歩3分
都バス：JR四ツ谷駅（麹町口）より晴海埠頭行03系統乗車・半蔵門下車徒歩2分



3.会　費　10,000円
（当日受付にて徴収します）

4.講　演　（午後4時～5時まで）
演　題「発展途上国への国際協力」
講　師　　元東京消防庁人事部長
元（財）日本消防設備安全センター
特別参与国際協力部長
荒川 宣夫 氏（昭23通信）

5.懇親会　午後5時15分～7時ごろまで）

6.お願い　出欠の返事は10月1日（火）までに同封のハガキにてお願いします。
なお、出席できない方は、お手数でも同封の振込用紙にて、年会費2,000円をお振込みくださるようお願い申し上げます。

7.お問い合わせ先
近江 義勝（昭28電気）
TEL 03-3811-3411または7088

東京支部長挨拶（第21回総会に当って）

渡辺 益男（昭19専精）

昭和19年精密機械科卒業の渡辺です。

本日は、東京支部第21回総会をこのようににぎにぎしく迎えることができました。

ご来賓として本部理事長を始め、各支部代表の方々に多数ご臨席いただき誠に有難うございました。

この21年間は、前期10年間が好況期で、残り10年がバブル崩壊といわれる長期不況で、お互いに苦労の多い年が続きましたが、このように元気でお会いすることができ、何よりの喜びでございます。

折角このようにお会いできました今、許された時間を大いに懇親のチャンスに利用していただきたいと思います。この後の講演は、34年卒宇都宮大学秋山先生のお話で、時宜を得た演題と楽しみにしております。

多賀工業会各支部は、各地で支部結成がすすめられておりますが、全国的には、未だ数が不足しております。

そんなことから、卒業生から時として、自分がどの支部に所属するのかわからないと耳にすることがあります。同窓生の親睦は、支部の有無が問題でなく、同窓生お互がチャンスある毎に親睦を深め会うことが大切と考えます。支部所属などこだわることなく、仲間を誘い合って会を盛んにしたいと思います。

なお、この会場は原動昭和18年卒東條社長が亡くなられた後も、このように色々と御好意を戴いていることを申し添え、東條会館への謝意を申し上げたいと思います。

以上で、私の挨拶は結びと致します。本日は本当に有難うございました。

第21回東京支部総会報告

近江 義勝（昭28電気）

第21回東京支部総会は平成13年10月6日(土)東條会館新館(インペリアルパレス)5Fで総会、講演会、懇親会とスケジュール通り行いました。今年の幹事は取り決め通り31年卒の方々に全てお願い致しました。総会、講演会の総合司会に山崎慎一郎氏(31原動)、懇親会は葛西四郎氏(31電気)にお願いし無事終了致しました。会員の出席は約70名、残念ながら年々減少しております。

来賓として本部より舛井理事長(37電気)、水戸勝田支部山本前支部長(20通信)、中部支部本告支部長(22電気)、埼玉支部原田支部長(23機械)、仙台支部矢沢副支部長(28電気)、栃木支部小沼支部長(30機械)、千葉支部高橋支部長代理(35金属)、静岡支部高田支部長代理(37機械)の出席を賜わりました。総会は渡辺支部長(19専精)の挨拶に始まり来賓代表として舛井理事長から国立大学法人化問題についての成行、また宇都宮大学工学部秋山教授(34原動)には「地域に根ざした世界に通じる活動を求めて」と題し、非常にユニークな講演で同窓生一同深く感銘いたしました。

懇親会は、各支部ご出席の皆様の紹介に始まり、懇談も非常に賑やかでそれぞれ旧交を暖め校歌、寮歌、逍遥歌と進んだ頃は最高頂に達しました。

最後は渡辺貢氏(26原動)の閉会の辞で19時少し過ぎた頃、来秋の再会を誓いつつ無事終了しました。

支部めぐり

千葉支部は年2回の会報発行で活動強化はかる

三幣 正人（昭24専機）

多賀工業会千葉県支部は、千葉県全域の同窓生の集まりで名簿上で1,600名弱です。支部の活動は毎年2回の会報で伝えます。黒白印刷で安直ですが、唯只管読んで貰えることに執念を燃やして編集しています。

これまでは“1人100行の原稿”をいただきましたが、“100人に1行の便り”を載せてることもその具体例です。また、毎号必ず貴重な会費の収支は報告いたします。支部の財布は几帳面な金庫番がしっかり管理してます。

年1回の総会々場は県内主要都市で開催するのでその際総会々場を中心に「無音の同窓」に会報を送ります。これらの人を含めて発送数は毎回700通前後です。毎年10名程度の同窓生が気が付いてくれました。この時が一番感激します。辛い事などふっとびます。同窓生の家族・友人達の参加を歓迎する支部独自の行事を躊躇逡巡、選択しながら立ち上げ、早いもので5年も経過しました。

a. 新年会　年1回　正月・第二日曜日。

b. 囲碁同好会　年4回

c. ゴルフ同好会　年3回：四支部対抗戦

囲碁・ゴルフは東京支部や埼玉支部にお世話になっております。今後ともよろしく。

d. 俳句コンクール　年2回　外に吟行会。

最近では自発的投句が漸増してます。折角の「想い」を「五・七・五」に粒々辛苦、推敲する。ロマンを満喫・技術の向上で慣れ親しむ人が多くなったのでしょう。

e. 史跡・万歩会

既に25回を無事終了して26回目以降の目的地を選定、下準備に懸命です。史跡巡りバス旅行

第1回目　久留里城－大多喜城－笠森観音。

第2回目　関宿城－将門伝承地

第3回目　香取－鹿島を予定・準備進行中。

盛夏に行うため細心の気配りが必要です。

全ての行事は担当する幹事の一層の努力の賜物だと真摯に受け止め感謝しています。

支部のもう一つ大事な集まりが幹事会です。

f. 幹事会　定例は年6回、奇数月第2日曜日。

支部運営の基本等について忌憚ない意見交換と事務処理を行っています。“足代”のみの支給に拘らず万障やり繰りし多数の幹事さんが参加します。

エッ！母校が統合され消滅！

意識改革による小さな政府・国政全般の聖域なき構造改革（骨太の方針）で国立大学改革が進行しています。①国立大学の再編統合の推進、②国立大学の法人化、③競争原理を導入して第三者で審議評価して2004年に移行と文部科学省は目論んでいます。独自で作成した目標計画と実行の推移を専門分野の評価・財政分野の評価で“存続・民営化・廃止”を査定するという。この制度を母校はどのように受け止め対応しているのか、母校でよく聞いてイラッシャイ。同窓会は「身漬く屍」じゃない「墓誌」に刻まれた極楽浄土行きなどと突然いわれては、寂しい悔しい残念至極です。ノーテンキ爺さん頼みまっせ！

幹事の口調は何時に無く厳しい。

平成13年度 多賀工業会東京支部会計報告

（平成13年4月1日～平成14年3月31日）

収入の部	金額（円）	支出の部		金額（円）
前期よりの繰越金	150,076	第21回総会開催費		583,267
		懇親会費	492,327	
本部援助金	250,000	講師謝礼	50,000	
		後納郵便料（出欠回答ハガキ）	19,760	
総会会費		土産代、出席者名簿作成費	21,180	
工専20名 大学41名（女性2名）	600,000	会報製作費		641,267
		印刷製本・ハガキ、封筒代	455,700	
寄付　秋山講師	50,000	宛名シール作成・発送費	185,567	
		会議費		137,748
年会費　249名分 286口	572,000	幹事会5回延べ32名		
		旅費・交通費		99,900
会議費　個人負担分	54,000	千葉、埼玉、仙台、中部、日立支部へ出席		
		振込手数料 年会費納入他		17,350
広告料　3社分	15,000	事務用品 東京支部印作成他		5,844
		通信費		7,920
		慶弔費　弔電　槌田先生他2名		7,549
		ゴルフ同好会補助		10,000
		雑費		3,180
		次期繰越金		177,051
合　計	1,691,076	合　計		1,691,076

上記の通り相違ない事を認めます。
平成14年　3月31日

会計係　　溝口 知昭

監　査　　近江 義勝

平成14年度 多賀工業会東京支部予算案

（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

収入の部	金額（円）	支出の部		金額（円）
前期よりの繰越金	177,051	第22回総会開催費		800,000
		懇親会費	700,000	
総会会費　80名分	800,000	講師謝礼	50,000	
		出席者名簿作成費	50,000	
年会費　2000×300名分	600,000	第5号会報発行費		700,000
		印刷製本・封筒代	500,000	
広告料	30,000	会報発送費	200,000	
		会議費		100,000
本部援助金	250,000			
		予備費　出張旅費、雑費等		257,051
合　計	1,857,051	合　計		1,857,051

槌田先生の思い出

柳沢　裕（昭28原動）

かねてから病気療養中の槌田先生には薬石効果無く平成14年1月19日（土）午前9時03分永眠されました。享年78歳でした。先生の偉業を偲び謹んで哀悼の意を表します。

さて、このたび多賀工業会東京支部から「槌田先生の思い出」を執筆してほしいとのご依頼があり、僭越ながらお引き受けすることに致しました。

槌田先生が茨城大学から成蹊大学の教授に迎えられ、工学部長から名誉教授になられた後でも茨城大学時代の大学関係者や、かつての教え子たちとの親しい関係は、今も続いていると伺っております。今後もその想いは懐かしく語り継がれて行くことでしょう。

国内外の工業教育に貢献した功績により正五位勲三等瑞宝章を受賞

先生は工業教育になみならぬ尽力と貢献をされ、国内のみならず海外においても多くの優れた人材を世に送り出されました。その功績により、平成14年2月15日**正五位勲三等瑞宝章**の叙勲を受けられましたことは、私どもにとっても大きな喜びであり、ご同慶にたえない次第であります。

槌田先生

先生はいつも学生の良き相談相手であり、良き友であり、裸のつき合いをしていただきました。庶民的でつねに驕り高ぶること無く、しかも威厳があり穏やかな説得力があって、前向きの考えをお持ちの方でした。私達が社会人になった後でも多賀工業会、各学年の同窓会や会合、旅行等に時には奥様ご同伴でよくご出席頂き、愉しい想い出を作って頂きました。もちろんよく喧嘩もしましたが、いつの間にか仲間が増えていったようです。

なぜに人は先生を囲むのか、その引きつけて放さない魅力、求心力の強さの秘密は何処にあるのか、未熟者の私には計り兼ねますが葬儀には中野区上高田にある広い高徳寺境内を埋め尽くすほどの多数の人々が参列され、ありし日の師を偲び、別れを惜しんでおられる姿が印象的でした。卒業後の先生との触れあいの機会は実に数多く多彩なものがあります。その中でもとりわけ私の記憶に今だ鮮やかに残っている幾つかの思い出について述べてみたいと存じます。

1.　旅行の思い出

○先生がネパールのトリブヴァン大学にお勤めの際、工学部1期生の同窓会、二八会の有志と家族13名のほか、関係者2名、総員15名で先生のご厚志によりネパールを訪問した時のこと。首都カトマンズからポカラ市に移動し、翌朝早くノーダラ峠に登り、そこから茜色に輝くヒマラヤの峻峰、マチャプチャレを仰ぎ見た瞬間、自然の持つ筆舌に尽くし難い美しさと荘厳さにただただ心を奪われてしまいました。そうしてこの峠近くに住む人々は、実に自然と一体となった生活を営んでいるように見受けました。先生は技術革新もさることながら、自然と人間との調和が如何に大事か、また、愉しいものかを無言で教えて下さったように思います。大切な自然を守るために、人の心の豊かさが一層求められる今日この頃ではないでしょうか。帰途、お釈迦様の誕生地、ルンビニの遺跡を訪問した時の情景も心に残っています。

○成蹊大学時代、先生のご指導で創設された群馬県吾妻村の吾妻共学舎が林間の広い敷地に建っていて、近くの渓流沿いの温泉に入浴後、ジュネーブの国連事務所から休暇を利用して駆けつけた女性たち、オーストラリアから牛肉販売で来日した商社マン、地元の人達など大勢集まってわいわい騒ぎながらバーベキューを愉しみました。ワイドな交流の輪が広がり、時の経つのも忘れさせた一夜のイベントでした。先生は既成の

教育の殻からはみ出して無理のない自然の形で、忘れ去られた人間の精神的な教育を本来の姿に戻らせようとされたのではないでしょうか。

○伊豆修善寺にある奥様のご親戚、日本画家の創始者川端画伯の由緒ある別荘にお招き頂いたとき、廊下の先に孟宗竹に囲まれた露天風呂があり、身体を沈めると湯が溢れ出て夢心地に誘われた。釣り仲間が近くの狩野川で釣った鮎を庭で塩焼きにした。鮎の焼ける香しいかおり、竹林を通して聞こえてくる渓流の音色に誘われて、心地よく先生とお酒を酌み交わしたひとときが忘れられません。

2. 宴会の思い出

○歯の弱い先生はなんといっても鮟鱇や鰻が大好物で、水戸市や都内の鮟鱇鍋屋を探し求めたり、千葉県や埼玉県の鰻屋、例えば浦和市にある和風庭園の小嶋屋へは二度位お供した覚えがあります。鰻の蒲焼きを先生は美味しそうに召し上がっていらっしゃった姿が目に浮かびます。

○平成12年荻窪の料亭「魚耕」で二八会幹事会の忘年会が終った後、先生はふらつき乍ら焼鳥屋へ行こうと言い出された。これ以上の飲酒は健康上良くないと思い、お引きとめしてバス停までお見送りした。この頃から先生は大分お体が弱っていらっしゃるなと感じました。

3. 晩年の思い出

○志村坂上にある病院の個室の入り口で奥様にお会いし原動科の幹事三人がベットに近づき、お見舞いと二八会の那須塩原行きに奥様が先生の名代で出席して頂いたお礼を申し上げると、先生は上半身を起こさてかすかな声でなにか嬉しそうにおっしゃって握手された後、すぐ横になられた。小太りで最近まで血色も良かった先生でしたが平成13年11月13日の火曜日が最後のお見舞いとなってしまいました。

○先生から頂いたグイ呑みの盃で酒を飲む度に懐かしい思い出に浸ります。先生にもっと長生きして欲しかった、そう思うのは私だけではないでしょう。

ご冥福を心からお祈りします

ここに先生のご冥福を祈り、併せてご家族ご親族の方々のご健康とご多幸を心から願ってやみません。

なお、ここに資料やご意見を頂きました宇都宮大学の秋山教授はじめ、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（平成十四年梅花の候）

お願い　覚えている方はお教えください

近江　義勝（昭28電気）

私が23年、吼洋寮に入寮した当時、現在歌いつがれている寮歌、逍遥歌の他に、歌われているのがあったと思いますが、はっきりしません。もし覚えている方がおられましたら、下記までお知らせいただければ幸甚に存じます。

♪新寮歌

1. 花咲きにおう　春の日に
集いきてより　去る日まで
我等が夢は　ここに燃え
我等が・・　・・・・・
逢鹿の丘の辺に立てば
若人達の自治のくに

2. ・・・・・　・・・・・
・・・・・　・・・・・

♪新逍遥歌

1. 今ほのぼのと暁の
靄うすらげば　空の幸
忽ち満ちて彼方より
光の影は踊り出ぬ

2. 丘の草原　慕い来て
尽きせぬ青春の夢多し
友の眸に涙あり
吾が踏む足に力湧く

以上は多分吼洋寮10周年記念に寮生が作詞作曲したものと思われます。

《連絡先》
〒113-0032　東京都文京区弥生2-8-6
近江 義勝　TEL 03-3811-7088　FAX 03-3811-3411

スコットランドの思い出

佐々木 秀朗（昭54機械）

大学卒業後、ジェットエンジン関係の設計・開発に携わって早や20余年を経過。長年従事した150－180席クラス民間旅客機用エンジンの設計・開発を経て、現在の官用エンジンの研究開発に関わり始めて3年、会社生活にどっぷりと浸っている今日この頃です。ここでは、遡ること7年ほど前、仕事の都合で1年半ほど過ごしたスコットランド生活の思い出をお話ししたいと思います。

英ロールスロイス社の工場跡地に

私たち家族が住んでいた町は、英国スコットランド西部の都市グラスゴーから南東に20km離れたイーストキルブライト（＝EK）という人口7万人ほどの町で、私の仕事場であるエンジンの共同開発パートナーの1つ、ロールスロイス社の設計事務所／開発エンジン組立工場があった所です。（その後、当地区の民間エンジン開発部門は閉鎖され、イングランドのダービー地区へ集約。）

この町には80年代後半、サッチャー政権下で企業の誘致を積極的に実施したこともあり、日本の電気関連企業（日本ビクター、パナソニック、富士電機等）が進出。また、町の受入体制もしっかりしていて、庁舎には、日本人向けの娯楽室兼会議室が設けられており、現地在住の日本人女性スタッフも常駐。不要の図書・ビデオの収集と貸出や各種催しの企画など、同スタッフの方にこまめに対応して頂き、数世帯しかいない日本人社会では、本当に頼りになる存在でした。企業誘致の優遇策の一環とはいえ、その後、イングランドで過ごした1年半ほどと比べても、EKでは日本人駐在員はかなり優遇されたと実感した次第です。何万人もの日本人が在住しているイングランドに対し、人間の数より羊の数の方が多いとのジョークがでるほどのスコットランドで、もともと日本人在住者も少ないことから対応出来ているという面があることも事実ですが…。

一日に四季が経験できる気候

当地の気候は、緯度が高いこともあり、冬は長く、朝の8時過ぎにやっと明るくなり、15時過ぎには暗くなる日が続きます。また、一日中雲が垂れ込め、1日で四季を経験するというほどで、薄日が差したかと思うと、一転曇り出し、横殴りの雨が降り出し、そのうち雪が飛んでくるというのが一日何回か繰り返します。このように長い冬をひたすら耐えることが、スコットランド人固有の忍耐強さにも現れているのではと思われます。気候的に良いのは、5月～8月で、冬が開けて春はあっという間に過ぎ、一気に夏を迎えます。夏時間になることもあり、夜は10時過ぎでも明るさが残り、夕食後の散歩なり、ドライブも可能となります。

なだらかな丘陵の続くイングランドの景色とは異なり、スコットランド北部のハイランド地方の山谷は雄大で一見に値します。

時々、現地の仕事仲間とパブで飲むころがありましたが、彼らは家族、趣味等々で、ビール中ジョッキ程度のコップ3杯ほどで、延々と4時間以上は話します。本当に話好きで、これは、イングランドに移って、同地の人間と飲んだ時も同様です。スコットランド人とイングランド人とは、ことある毎に人種が異なるとして、何かと議論し合いますが、私の見る限り、パブでの行動パターンは基本的に一緒です。

日本に戻って5年余りが過ぎ、これらの仲間とは、カード、Eメール等のやり取りに留まっていますが、いつか再会をと考えています。

藤田氏がデミング賞本賞を受賞

平成13年10月10日、日本科学技術連盟（井田勝久理事長）より、全社的品質管理（TQM）活動の発展や普及に貢献した経営者らに贈られるデミング賞本賞の2001年度受賞者に藤田史郎氏（昭28電気）が選ばれ、11月13日経団連会館で受賞した。

受賞の理由は、藤田氏が28年に電々公社に入社して以来、NTT並びにNTTデータにおいて、わが国品質管理界発展のため、長年多岐にわたり尽力された結果であり、茨城大学工業部卒業の我々にとりましても誠にご同慶の至りであります。

この受賞祝賀会は、平成14年2月5日、帝国ホテルにQC界およびNTTの方々約350名が集まり、盛大に行われました。（近江義勝・28電気）

明日はないさ

藤田 史郎（昭28電気）

一日が終わって就寝の床に就く。毎日のことだが、この頃とみに寝つきが悪くなった。床に就きながらいつものように、今夜も不吉な予感に捕われる。明日の朝になって、本当に生きているのだなあ。

私ももう72歳。同僚や友人からは常日頃「若く見える。どう見ても60代前半だ。」なんてお世辞いわれて、まんざらでもない日々を送っていても、やっぱり歳は争えない。あと何歳まで生きられるのだろうか。そんなことがふと頭をよぎる日々が多くなってきた。

考えさせられる「生きていたことの意味」

そんな頃に無二の親友が亡くなった。遺族から友人代表としての弔辞を読むことを要請された。そのことが、今まで気にも留めなかった“生きることについての意味”を深く考えさせられるきっかけを与えてくれたようだ。弔辞文案を考えていて誰だか忘れたが“死して美田を残さず”を述べた明治の元勲の言葉が思い出された。その友人は家も土地も趣味の盆栽も全て売り払い、奥様には買い換えたマンションのみを残したようにも思われた。弔辞をしたためながら、ふと彼の一生は何だったんだろうと考えさせられた。その時、“死して美田を残さず”の格言を重ね合わせて、彼の生き様は、私たちに尊いものを残していることに気づかされた。

“生きていたことの意味”。それは親族や友人や社会の人々に、彼の人となりや誠実な心そのものを、それらの人々の心に刻み、永遠に思いを残していることなのではないかと思う。具形化した財産や有形の価値より、はるかに大切なことだと思う。彼はまさに、そういう生き方を実現した立派な生涯であったと思う。

このことを明日に期待するものではない。私自身に当てはめた時、人様にまた社会の中に、今までいったい何を残してきたのだろうか。

自己の生きることの喜びと自然社会との共生の中に自分を置くこと

振り返ると、私には青春といわれる甘美な時代はなかった。それだけに、今にして青春時代の環境を吸収しようという焦りのようなものがあり。やれ、コンサートだ、やれオペラや演劇だ、あるいは文学など、ゴルフの帰りの時間までもそれに充てようとしている。それはそれで立派なのかもしれなが、一見充実しているように見える毎日でも、何か生命の充実感を味わえないでいる。その他考えてみると、熱中できる特別な趣味があるわけでもない。こんな平凡な生活は私だけではないだろう。そう割り切ってはみても、そのことが私にとって何の慰めにもならない。所詮、音楽だ文学だ演劇だといったところで、自己のみの生活充実のためなのではないだろうか。もちろん自己の内外的教養を高めることは決して軽視得るものではなく、極めて大切なことはいうまでもない。このことは、多分自己の生きることの喜びなのであろう。そのことを否定するものではない。ただ、言いたいのは、それに浸ることだけが人生生きてきたことの意味なのだろうが。人間は1人で生きるものではなく、人々は自然社会との共生の中に自分を置くことが大切であろう。

生きるとは社会のために明日ではなく今日全力を尽くすこと

最近童話で“葉っぱのフレディ”という本が見直されている。その中で感動する言葉があったことが忘れられない。フレディは次のように言っている。「僕は春から冬までの間、本当に良く働いたし、よく遊んだね。まわりには月や太陽や星がいた。雨や風もいや。人間に木陰を作ったり、秋には鮮やかに紅葉して、みんなの目を楽しませたりもしたよね。それはどんなに楽しみだったことだろう。それはどんなに幸せだったことだろう。」それに

対して、年上のダニエルは次のように教えている。「世界は変化し続けているんだ。変化しなものはひとつもないんだよ。春が来て夏が来て秋になる。葉っぱは緑から紅葉して、散る…死ぬというのも変わることのひとつなのだよ…。いつかは死ぬさ、でも“命”は永遠に生きているのだよ。」枯れ葉のフレディは雪が解けて水に混じり、土に解け込んで木を育てる力になる。まさに、これが循環型の大自然の摂理なのだろう。

よく世のため人のためと言われているが、大自然の大潮流の中で私は今生きている身として、何をすれば良いのだろうか。その答えが童話にすぎない。“葉っぱのフレディ”の中に描かれているように思える。私の行いが、そして私の生き様のいくつかが、この世の中で親族や友人に、そして社会の人々の中に刻み込まれ、受け継がれていくような人生こそが大事であり、残されたわずかな年月の中で、そのことを燃焼させたいと思っている。

“生きたらば、ただこれ生。滅たらば、これ滅に向かいて掴むべし。死を厭うことなかれ。生を願うことなかれ”。－道元－

－明日はないさ－

社会のために明日つくすのではなくて、今日全力を尽くすことだ。

お知らせ

埼玉県展（写真の部）に入選

題「収穫」　鈴木 日出男（昭30原動）

この写真は、昨年ネパールのカトマンズ近郊コウナ村で、11月12日に一瞬のシャッターチャンスを捕えて撮影したもの。

斎田和夫（昭28機械）さんのご指導により激戦の写真部門で入選した。

花物語写真展への出展作品

題「神がみの座と共演」

この写真は、昨年11月1日より10日まで、エベレストの近くまでトレッキングした時の帰り道、バクテン村よりクスク・カングルヒマール（標高6,369m）と名花のパリージャを撮影したもの。

地域社会のパソコン・ボランティアに参加して

小池　健一（昭37機械）

私は昭和37年に機械工学科を卒業して以来、日本の高度経済成長時代を企業社会一筋に過ごしてきました。誰しも引退後はいずれ生涯を終える地域社会に溶け込んでゆきたいと思っていることでしょう。しかし、男性の場合、私のように地域社会と関わりを持たずに過ごしてきた者にとっては、引退したからといって簡単には地域社会に溶け込めない人も結構多いのではないでしょうか。そこで、私は何か自然な形で出来ることがないかと、市の社会福祉協議会を経て教育委員会を訪ね、市内中学校のパソコン授業の補助に参加するようになりました。また、その延長上で身体障害者福祉センターのパソコン・ボランティアや市民IT講習会のアシスタントにも参加するようになりました。

今、中学校の情報基礎教育のカリキュラムは、現在のマルチメディア時代を反映して、コンピュータ絵画・画像、コンピュータ音楽作曲、インターネットによる学習資料の検索調査、ホームページの作成など、多岐にわたっております。中学校の情報基礎教育の授業

現場に接して見て、どこの職場でも見られるような一般的事務処理ソフトの活用、昔流にいえば、いわゆる読み書きソロバンの領域よりも、時代の流れを受け止めているように感じます。

卒業選択課題のホームページ作成では、オーディオCDやデジタルビデオの動画など、大容量メディアを取り込む生徒もおります。また、コンピュータ環境の面でも最近、8Mbpsのブロードバンドが導入され、さらにパソコンの更新が予定されていて、今後は容量サイズなど問題にせずに課題テーマに取り組んでゆくようになることと思います。

中学校の教育には若い世代の指導者が必要

ここに中学校の授業現場に接してきて、私なりの感想の一断面を下記に記してみます。

よく「教育とは生徒の個性、資質を引き出して、それを伸ばしてやることである」などといわれます。確かに中学校の教育現場に接してみて、生徒それぞれが、特定の好みへの拘り、好きなことへの執着、自由奔放な感覚など、個性が発露されていることを感じます。全体調和や安全性への思考というものは高齢者の保守性の匂いがするもので、バランス感覚に秀でた人間からは、天才や優れた創造性は生まれないということでしょう。

また、怖いもの知らずで未知のことに取り組む自由奔放な中学生に、私などはなかなか追従できない感じを抱くことがあります。しかし、こうした進取の気性を肯定してゆかないと飛躍はないということでしょう。そして、いろいろな失敗の経験も若い人の成長のためには、貴重な財産として必要であるということかもしれません。

私などは高齢者への対応の方が同質的で楽であり、中学生の教育現場に接してみて、若い人達への対応にはやはり若い世代の指導者でないと限界があるとよく感じます。

一方、現在の急速に進む少子高齢化社会にあって、普段は青少年と接することのない世代がますます増えてきていると思います。そうした中で、中学校の教育の場に世代を超えて参加して、力不足に悩まされながらも、変化してゆく現代社会の一端に触れている思いを感じております。

高齢者は時代の変化に追従むつかしい

教育の世界以外の社会一般に目を向けてみると、今の若い人達は誰でもパソコンを使いこなしていると思いますが、難しいのはやはり激しい時代の変化に追従できなくなってきているお年寄りの方や、社会との繋がりが薄れてきている高齢者ではないかと思います。

平成13年度の政府特例補正予算で全国の市町村で展開された市民IT講習会は、このような高齢者や初心者を対象に、国民誰もが現在のインターネットや電子メールの恩恵を受けられるようにと、パソコンの取扱いの基礎習得に主眼がおかれております。従って、パソコン・スクールのようなビジネスの技能取得を目的としたものではないと受け止めております。

以上、私のパソコン・ボランティアの概況は地域社会の風土紹介と合わせて、私のホームページにもありますので、関心のある方はご覧下さい。ただ、私のホームページは企業や団体のように情報発信を目的としたものではなく、一個人の記録作品のようになって、いつも変わり映えのないものです。

URL:http://www5a.biglobe.ne.jp/-koike/kenichi/index.htm

（写真は中学校のパソコン授業風景）

じじバカ孫の成長雑感あれこれ

國井 榮次（昭32年機械）

早いもので会社の仕事から解放されて5年になる。1～2年目くらいまではまだまだ何か出来ると思っているうち当初母の介護など雑用であったという間に時間が経ってしまった。今母は完全看護の病院に入っているが出来るだけ食事の介護には出かけるよう心がけている。

何を書いたらよいのか迷うところだが、身近な孫のことなどについて雑感を述べてみたい。

高3年を頭に3人の孫の成長が楽しみ

娘は大学を卒業した翌日に結婚した。最初結婚の話を聞いたときあまりにも急なためどう対応したらよいのか戸惑った。現在、娘の家族は名古屋に住んでいて外孫が3人いる。今年度（2002年度）には一番目が女子で高校3年生（長女）、次が男子の高校1年生（長男）で、最後が女子の小学6年生（次女）になる。いまやその3人の孫の成長とともに大変楽しい時を過ごさせてもらって感謝している。孫たちは、遠方にいるので何かイベントがないとなかなか合う機会がない。息子もすでに結婚しているがまだ子供はいない。ビクター（ゴールデンレトリバー6歳）が唯一の長男で同居している。大変大きく風貌も立派で賢く主人の命令は良く聞く、おとなしい子だ。

われわれの子育て時代とは大きく変わってきている

娘の家族が新潟にいて長女がまだ小さい頃のこと、その長女が喘息もちだったので体を鍛えるためバレエを4歳から小学6年生くらいまで習わせていた。新潟は、対岸のロシアと近いせいかバレエが盛んなようだった。長女がバレエを習って1年位経った頃、東京の我が家に家族で遊びにきた。そのとき娘が突然何かバレエのレコードあるの！と言ったのでどうしてと聞いた。そして初めて孫がバレエを習っていることを知り、まさに“びっくり”であった。バレエは良家のお嬢さんが習うものと思い込んでいたわれわれの子育て時代と、娘たちの子育て時代とは何か大きく変わって来ているように感じた。バレエがここまで一般的になっているとはまったくの認識不足であった。ともかく、チャイコフスキーのバレエ組曲「くるみ割り人形」をレコードプレーヤーにかけたら曲にあわせ5歳の長女が踊り始めた。バレエシューズをはいていなっかたが、それらしく品をつけて踊りだしたら今度は、3歳の長男がお姉ちゃんにあわせるようにアドリブで上手に踊り出した。本当に素晴らしい！まさか男の子が踊るとは“二度びっくり”した。ビデオカメラを回すのも無我夢中であった。まさに晴天の霹靂だった。それから我が家に来るたびにリクエストに応えてペアでバレエを踊り、われわれじじ・ばばを楽しませてくれた。そのうち孫のバレエの発表会の知らせを聞き新潟まで足を運ぶようになった。小さな子供がみんなで綺麗に見事なバレエを見せてくれる度に大きな拍手を送った。われわれの時代には考えられない出来事だった。幸せいっぱいを感じ取った。

孫の持つ能力を引き出してやりたい

数年後名古屋に移ってからも、長女はピアノを、次女もお姉ちゃんに続きバレエを習うようになり、長男もサッカーのほかヴァイオリンを習い始めていた。孫がだんだん成長するにつれ、それぞれ自分の能力を発揮させるべく娘夫婦が努力しているのを大変誇りに思うようになった。そのうち次女が韓国の若いハンナ・チャンのチェロ演奏を聞きファンになってしまい、とうとうチェロを習うようになった。そのため今度は長女のピアノ発表会、長男のヴァイオリンの発表会、次女のバレエの発表会、チェロの発表会と何度も名古屋に出かけ、その出来栄えと孫たちの成長振りを確かめることの出来る機

会を与えられ感謝の念でいっぱいだ。そして今では長男は一人前に成長し、大人用の私のヴァイオリンを使っている。次女もチェロを同じようにすこし大きいのに替えている。

孫たちとヴァイオリン・アンサンブルを

私も学生のときにヴァイオリンレッスンを受けていたので、卒業後も続けようと思っていたところ、幸い入社した横河電機の近くにおいでのヴァイオリンの先生（三鷹市管弦楽団指揮者）から教授していただくことが出来、その後先生の楽団に約30年お世話になった。それから国分寺フィルハーモニー管弦楽団に最近まで所属していた。そのせいか孫たちが楽器を習っているのを見ていると、自分のことのように嬉しく思い、家族で何かアンサンブルが出来たらいいなと思っている。特に関係はないが1999年パガニーニコンクールで第一位に入賞した国分寺出身のヴァイオリニスト庄司紗矢香さんは、私の先生の娘さん（前三鷹市管弦楽団コンサートマスターで友人）が、5歳から小学5年生までヴァイオリンレッスンを授けたことを知り、大変驚くとともに国分寺住民としても誇りに思っている。

西野・黒木先生から スキーの手ほどきを受ける

ここ数年は年末に2～3泊の妙高高原スキー場に出かけて行き、名古屋の家族とその友達の家族約20～30名が冬のロッジ合宿で炊事当番を分担しながらスキーを楽しんでいる。そして孫とその友達が私の生徒として年々上手になり、いまではパラレルクリスチャニアもこなせるほど上達し、特に彼らのお父さんお母さんから驚かれたりして、私自身も子供たちから沢山の元気をもらっている。アフタースキーも孫たちグループと一緒になって遊んでいる。

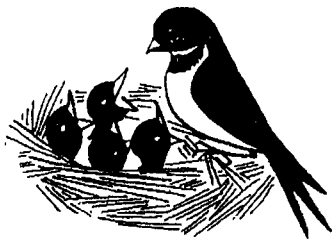
実はこのスキーが好きになったのは、同期の石橋、潮田両君との卒業研究論文完了を記念して西野先生、黒木先生とご一緒に蔵王スキー場へ連れて行っていただいたお陰なのです。横河電機でもスキーが盛んで、入社した冬からスキーに出かけた。そのころスキー映画“黒い稲妻”のトニーザイラーの滑降に魅了され、先輩の指導もあり、若いうちに全日本スキー連盟の1級検定に合格することが出来た。当時は指導員も少なかったので、交通公社の補助指導員として何回かスキーツアーに参加したこともあった。今でもまだ元気に若者に伍してスキーが出来るのだと思うと西野先生、黒木先生には感謝でいっぱいです。

今は地域に密着したボランティア活動中

いま現在は、国分寺市の地域に密着した活動をして何かと忙しく過ごしている。公務としての公民館運営審議会、市防災会推進委員事務局、地域社会の自治防災会、国分寺市防災一七会（市民防災まちづくり学校17期生の会）、農業体験講座での農作業、その他趣味のサークルなどで落ち着く暇もない。また最近は老人施設などでボランティアとして入所者と一緒に愛唱名歌を歌ったり、歌にあわせて体を動かしたりして楽しむことも始めている。

ひそかに期待している 四代の女ねずみ年生れの曾孫

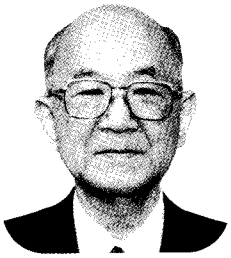
終わりに、ひとこと。横河メディカル時代に社内ギネスブックを開設した。そのとき特別に採用していただいたものに我が家に三代続いている“女ねずみ”がいた。妻－娘－孫だ（いずれも24歳離れている）。今ひそかに期待しているのは、その孫が結婚して、丁度タイミングよく“ねずみ年”の子が生まれて来ることだ。特に女の子なら妻－娘－孫－曾孫四代続きの女ねずみ家系が出来上がり、世界のギネスブックの記録になるかもしれないとわくわくしてくる。こんなたわいもない夢を見ながら筆を置くことにする。



資源と環境

照沼　清（昭29金属）

公務員として通産省に入省



私が卒業した昭和29（1954）年は、景気の悪い年で、求人が少なかった。たまたま試験に合格していたので公務員になってしまったのである。私は、旧・通商産業省・工業技術院・資源技術試験所に入所し、非鉄金属の選鉱・製錬関係の部に入った。その後、公害関係の部に移り、さらに所の研究管理を行う企画室を経て、石炭関係の部に移った。研究所の部課は専門性が強いので、部間の移動は多くない。三つ部を移動したのは、私を含めて3人である。なお、資源技術試験所は、その後、公害資源研究所、さらに資源環境技術総合研究所と名称を変更し、現在は独立行政法人の産業技術総合研究所に組み込まれている。資源の利用には常に環境、公害の問題が関係するために、組織や研究内容も時代に対応して変化してきたのである。

産業公害防止のため沿岸水域の生態系の研究に参画

戦後、経済の発展とともに、日本の各地で沿岸の埋め立て等で臨海工業地帯が開発され、生産活動が活発化するにつれて、大気汚染物質や水質汚濁物質による被害がひどくなり、公害防止が法制化された。さらに、大規模な工業開発が進められている地域に関して、被害を未然に防止するために。産業公害総合事前調査が通産省により昭和40（1965）年から実施された。これは現地調査により必要なデータを所得し、これを用いて模型実験と拡散理論計算を行って将来の汚染を予測し、問題が生じないようにすることを目的とした。これには公害資源研究所公害第1部の第1課が大気、第2課が水質をそれぞれ担当した。発足当時は、現地調査用の計測器の調達にも苦労し、さらに研究員自らが調査観測を行い、相当な労働だった。私が公害第1部第2課に移ったのは1978年であり、既に調査を委託できる民間企業も存在していたので、私は事前調査には係わらず、沿岸水域の生態系の研究に参画した。

石炭・石油の大量利用で日本経済が成長

日本は無資源国といわれる。この場合の資源とは、エネルギー資源や鉱物資源を指していると思う。しかし資源は広い意味に使用され、国土資源、人的資源、などという。過去の戦争の多くは、国土も含めて、資源の獲得を目的としていた。太平洋戦争終了（1945年）後、日本は海外からの資源の輸入が禁止された時代があり、そのため国内資源の活用、特に未使用資源の開発利用が重視された時代がある。その後、海外資源の輸入が認められて、石炭よりも使い易くて、廉価な石油が輸入され、エネルギーの流体革命が起こった。そして、1バレル2ドル以下の石油を大量に消費して、日本は経済成長を続けた、これは無資源国の強みでもあった。国内炭を豊富に保有する英国は、石油の利用が制限されて、経済成長が遅れたのである。

人間は自然の生態系のハミ出しもの

人間の欲求の第一は食であり、次は安全である。これは動物にも当てはまるが、動物はこれを本能で行い、人間は意識的に行う。実は、意識的に行うところに問題が伏在する。自然界の動物は、自然の生態系に組み込まれて活動しているが、人間は自然の生態系の“ハミ出しもの”になってしまっている。人類は、樹上生活からサバンナに降りて集団で狩りを始めた時代までは、自然の生態系の中に留まっていた。農業が始まると森林が切り開かれて環境の破壊が始まる。乾燥地帯の灌漑農業は、農地をも劣化させる。メソポタミアの都市文明は、人間の英知のシンボルであると、学校の歴史で教えられてきた。これは進歩史的歴史観での評価であり、反面では環境破壊のモニュメントでもある。文明は環境を消費して滅んできた。金属を使用するためには、木材資源が必要になる。特に、木炭製鉄は広大な森林を消費したが、コークス製鉄が開発されて問題は解決した。技術開発が環境を守った稀な例である。

資源を大量に必要とする物質文明は、環境も消費しているのである。アフリカのある部族は、天気に左右されるからと農業を拒否し、未だに狩猟採取で生活しているという。1日2～3時間狩猟採取で家族を養うことが出来、後の時間は好きなことをしているとか。現代の世界的な一般論は、これを開発援助の必要な貧困社会と見なすが、彼らは、自然環境に関する豊富な知識を持ち、知恵を使って自然と共生しているのである。

人生とは妙にして愉快なもの

坂本 俊雄（昭32機械）

月日の経つのは早いもので、1957年に卒業してから45年になる。流体力学が苦手だった小生が、事もあろうに流体力学を基本とした油圧の道に入り、「アメリカに追いつき追い越せ」とばかりに、1996年に定年退職するまでの38年の間は、「組合運動の先頭に立ったり」、「中国の合弁会社の技術指導と経営参画で4年ほど中国に赴任し、価値観の違いから色々な問題の対応に追われたり」での紆余曲折はあったものの、油圧技術一筋に生きてきた「油圧馬鹿である」。その上、定年退職後ではあるが、大学で非常勤講師として教壇に立ち、水力学を教えるとは、まさに人生とは妙にして愉快なものである。恩師岡田先生も苦笑いをされていることと思う。

佐渡の小木湾で「たらい舟」に乗る坂本夫婦

頭の体操に「油圧技術書」の執筆活動

定年退職後はダムゲートの会社で顧問として油圧関係の仕事に携わり、非常勤講師を勤めながら、頭の体操とばかりに、貧乏暇なしを絵に描いたように、ダムゲート用油圧装置の技術的課題などを技術専門雑誌に投稿したり、オーム社から昨年発行した「これなら分かる油圧技術／基礎編・応用編・トラブルシューテング編（共同執筆）」の原稿書きなどで忙しく過ごしてきた。

今年の4月からは、教壇に立つことはなくなり、少々頭の体操が疎かになりそうであるが、今年もオーム社から出版予定の「油圧・空気圧の回路の作り方（仮称）」の油圧編の執筆やら、油空圧学会への投稿やらで、当分、頭の体操は続けられそうである。体力もそろそろの年ではあるが、体力が続き、やれる間は機会を捉えてやって行く積もりである。「人生虚しく一生を過ごすことなかれ」と言われるように、これもまた人生であると思っている。

健康は旅行で鋭気を養なう

貧乏暇無しで無趣味な呆れた奴とお笑いなさる方もいると思うが、これでも時間を作って結構楽しんではいる。100歳になろうとする親爺の世話をしながら、地域での健康体操などでのボランティアに精を出している。「かみさん」と、時には「かみさん孝行？」の旅行をし、鋭気を養っている。「佐渡での、たらい船」の写真を恥ずかしくもなく載せてみた。

若者へ「ものつくりの伝統」を継承したい

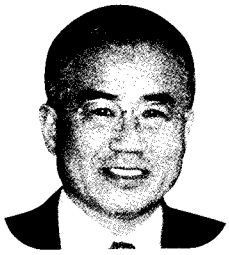
さて、昨年の10月から今年の2月まで、ものつくり大学から、「中小企業の人材の育成と技術の伝承に関する調査研究」の調査を依頼され、時間を作って会社訪問をし、経営者や若い技術者約70名とヒヤリングを行うことができた。特に若者達の考え方が、我々の時代と比較してどの様に変化しているのかに関心を持って臨んだ。

「アメリカに追いつけ追い越せ」といった大きな目標があった我々の時代とは異なり、目標が立てにくい現在では、若者の「ものつくり離れ現象」が進んでいるといわれている中で、現場の若い技術者や技能者はしっかりした考えを持って、将来を指向し仕事に対処している人が多くいたことには、意外とも感じられたことである。

マスコミの悪宣伝とは異なり、若者は茶髪でもしっかりしており、技術立国としての日本はまだ大丈夫であるとの確証を得た気がするし、安堵もした。技術に生きてきた者として、若者達に日本の「ものつくりの伝統」を確実に継承して行ってもらいたいと念じて止まない一人である。

霞ヶ浦湖畔での雑念

菅谷 禎男（昭42機械）



茨城大学を昭和42年に卒業して30数年、1年ほど前、農学部のお隣り土浦市に転勤してきました。最近では、土浦での生活に慣れて、事務所に泊まったウィークデーの朝は2キロほど離れた霞ヶ浦湖畔の土浦総合公園へ自転車で行き、そのまま1.6キロのジョギングコースを6周、その後、ひざに負担を掛けないよう土の上をほんとにゆっくりジョギングで1周し、約1時間で事務所に戻る健康的と思う生活をしています。自転車での周回中は体への負担が少なく、頭の中に雑念が浮かんでは消えていきます。

その雑念から、この環境を私に与えてくれる霞ヶ浦の水質保全について、常陽新聞の記事を参照しつつとりあげたいと思います。霞ヶ浦は、NHKの天気予報図にもくっきりと表されるなど茨城県を代表するトレンドマークですが、わが国全体の森林率が67％に対し、茨城県の森林率は県全体で30％と大阪府についで低く、さらに霞ヶ浦流域の森林率は20％と極めて低い環境にあります。また、湖の水深が平均－4Mと浅く富栄養化しやすい特性があり、水質保全について多くの問題を抱えています。もっとも、1970年代後半から80年代を通じてアオコが大発生し、腐臭が漂って、霞ヶ浦の水質汚濁の象徴といわれたような最悪期は過去のこととなりました。

霞ヶ浦の水質保全に協力

2000年度の指標を見ると、COD※は西浦で7.6mg/L、北浦で9.2mg/L、全窒素は西浦で1.0mg/L、北浦で0.95mg/L、全リンは西浦、北浦ともに0.12mg/Lであり、環境基準のCOD3mg/L、窒素0.40mg/L、リン0.03mg/Lには遠く及ばないのが現状です。それでも、霞ヶ浦の水質は、西浦の悪化傾向にはようやく歯止めがかかったとされ、一方北浦ではこの5年間、COD、全窒素、全リンとも悪化し、特にCODは水質の測定開始以降、最悪のレベルで推移しています。遅れのめだつ生活排水対策や養豚が盛んで、畑作農家も多いといった北浦の流域特性が背景にあり、湖内へのリンの蓄積進行もあって、「北浦への流入河川の水質が、ほぼ横ばいのため、底泥からの溶出も大きな要因の一つとしてクローズアップされており、西浦同様に、底泥しゅんせつが大きな課題にもなっている。」（2001.10.10付）と指摘されています。

※COD（水中の有機物を酸化剤で酸化するのに消費される酸素の量）

アオコに代わりメタンや環境ホルモンで深刻

「80年代までのCOD値の季節変化は、夏にアオコ（ミクロキスティス）が発生し、COD値を引き上げる一方、冬にはそれも消滅し、COD値も下がると考えられていた。しかし、92年度を境に、アオコに代わり、低温、低照度を好み、年間を通じて生きるオシラトリアやフォルミジウムが勢力を伸ばし、アオコを席巻して真冬でもCODが下がらない状況が生まれた。」（2001.10.8付）「これまで、植物プランクトンの発生を抑えることでCODを引き下げる努力が図られてきたが、溶存態CODがCOD全体の4から6割を占め、霞ヶ浦の水そのものが、既に、環境基準を上回るCOD値を示す水になっていることが明らかになっている。」（2001.10.8付）さらに、トリハロメタン問題、内分泌かく乱物質（環境ホルモン）問題と、水問題は深刻化しています。

この間、「モニタリング調査を続けてきた国土交通省と水資源開発公団は湖岸の植生の中・長期的な変化について、西浦では７２年以降85％が減少、北浦・鰐川では82年以降84％が減少したと認めた。」（2001.9.1付）とされています。

諸対策を官民一体となって取り組む

このような中で、生活排水対策（下水道事業）、植生浄化施設の建設、湖内の浄化対策（底泥の浚渫除去）、農業排水の植生浄化（休耕田、溜池の活用）、畜産排水処理、養殖漁業の負荷削減、環境にやさしい農業の普及（溶出抑制肥料の使用促進）、森林・平地林保全、工場・事業場対策、霞ヶ浦導水事業等、さまざまな対策がとられています。特に「底泥浚渫は全体で4000万立方メートルのうち800万立方メートルを当初計画として、当初計画の7割の進捗率です。」（2002.1.3付）工学部出の常か、このような官民一体の取り組みが続く限り、どの対策を最優先するかの問題はありますが、近々良い結果が出ると信じています。

最後に、専従職員は私一人の小さい会社ですが、名刺の裏を紹介して雑念の終わりとします。『弊社は、高濃度底泥浚渫船「レイテック1号」のほか、フローター、水上官、沈設管、ゴムスリーブ等を保有しています。「レイテック1号」は、特許発明の回転バケット式集泥機による自動浚渫装置のほか、GPS船位計測システム、運転支援・監視システムを備えた最新鋭船です。これらは、霞ヶ浦水質浄化対策事業に役立っています。』

山へのあこがれ

三本木　武（昭30金属）

私は山が好きで山登りをはじめたのは幼少の頃からである。

去る5月のゴールデンウィークに、私の故郷である那須連山を高校時代の友人と2人で3回目の縦走を行なった。私は山を登る時にいつも考えることがある。

なぜ山に登りたがるのか

人はなぜ山に登るのか。登りたいのか。これは、登山という行為を人間が続ける限り、永久に問われることになるだろうと思う。人は未知のものにあこがれるからであり、未だ行ったことのない場所、未踏の場所、そういう場所を、自分の足で踏みたいと思うし、誰よりも先に立ちたいと思うからだ。

山の頂に恋する気持ちの背景には、そういう人間の根源的な欲望がある。しかし、山頂がたとえばアルプスのように3,000m級以上である場合、そこに立つことは非常な危険と困難が付きまとう。場所によっては死ぬこともある。そういう危険な場所になぜ人は行こうとするのだろうか。私自身はささやかな登山（1,000～2,000m級の山）しかやったことがないが、ヒマラヤの8,000m級の本格的な登山をやっている友人がいる。

「なぜ山に登るのか」と「何故生きるのか」は同じこと

彼らにこの話しをしても「なぜなのかな」とはっきりした答えはかえってこない。「わからないけど、そこへ行きたいんだ」という。私もその答えを探しているのだが、おそらく、その答えはないのではないか。最近そう思うようになった。

あったとしても、人それぞれ個々に違うはずであり、また違うものでなければならないと思う。それは「なぜ山に登るのか」という問いは、“何故生きるのか”という問いと同質であるということではないだろうか。だから答えを出しようがないということがわかった。

山趣あふれる三斗小屋温泉に一泊

私たちの今回の山登りは、那須の板室温泉入口からスタートした。体調や年令を考慮して、余裕をもって歩くことにした。はじめに沼ッ原湿原に行く。ここでニッコウキスゲ、レンゲツツジ、ザゼンソウなど高山植物の花が咲いている様子を見てから、昼食をとる。

午後2時頃に沼ッ原を出発、やわらかい春の日差しを受け、暖かな風を浴び、新緑の芽吹く落葉樹林の山道を小鳥の鳴く声を聞きながら登って行くと斜面が開けて、ひざがかくれるほどの熊笹高原に出る。これをしばらく登ると三斗小屋温泉に着く。

ここには宿屋が2軒（煙草屋と大黒屋）しかない。私たちは前もって予約しておいた煙草屋旅館に泊まる。那須温泉でも一番奥地にある温泉で、登山者のベースキャンプとして、山小屋の雰囲気が十分味わえる宿である。おすすめは高台の露天風呂で、満天の大パノラマが満喫できることだ。

夜は電気がなく、自家発電のため9時以降はランプの明かりだけになる秘境です。夕食は山菜料理が中心で、一泊2食付7,000円と格安です。ここは標高1,800mの位置にあり、夜中に気温が急速に低下するので、布団と毛布が必要だ。すべてがセルフサービス制である。

山へのあこがれは登頂にある

翌日も晴天で8時半に宿を出発した。熊笹が茂る雑木林の山道を登り、隠居倉と熊見曽根を経由し、第一の目的である朝日岳（1,896m）に登頂した。ここでおにぎりの昼食をとる。那須連山の眺めは雄大で大変素晴しかった。

ここから峰の茶屋まで下り、第二の目的である茶臼岳（1,917m）に向って登る。岩石がごろごろ転がっている急坂を登り、やっと登頂にこぎつけた。この征服感は何物にも換え難いものだ。山へのあこがれはここにある。頂上からは好天に恵まれ、那須御用邸をはじめ黒磯市街や白河市街、はるか大平洋まで見わたすことができた。

ここからは歩き慣れた岩石だらけの山道を下山し、那須ロープウェイ山頂駅から山麓駅に下りる。駅前から東野交通バスで黒磯を経由し那須塩原駅に着く。これで一泊2日の楽しい心体の癒しの山旅は、無事終了しました。

平成14年度多賀工業会(本部)総会の報告

去る6月9日（日)、第27回多賀工業会埼玉支部総会開催にあわせて「平成14年度多賀工業会本部総会」が、さいたま新都心の「ラフレさいたま」で開催されました。

総会は、舛井理事長および山田、本告、鶴田3副理事長はじめ渡辺（東京)、三弊（千葉)、原田（埼玉)、小沼（栃木)、駒木根（いわき)、樫村（日立)、石橋（鹿行)、内山（水戸勝田)、廣木（中部)、長沼（中四国）支部長ほか本・支部会員65名、計80名が参加し、市村稔常任理事の司会で次の通り行われた。

本部総会次第

司会 ・・・・・・・・・・・市村　稔（学金41）
開会 ・・・・・・・・・・・本告光男（専電22）
理事長あいさつ ・・・・・舛井正義（学電37）
埼玉支部長あいさつ ・・・原田昭平（専機23）
議長選出 ・・・・・・・・・鶴田浩一（学電42）
議題１.名誉会員の推せん ・・・別記参照
２.理事及び監事の選出 ・・別表参照
新理事長あいさつ ・・・・村野井徹夫(学電40)
新役員の紹介 ・・・・・・・・・別表参照
閉会 ・・・・・・・・・・・本告光男（専電22）

―――――― 休　憩 ――――――

講演会　議題＝「大学新時代」
講師＝茨城大学
学長　宮田　武雄（学電38）

―――――― 休　憩 ――――――

本・支部合同懇親会・・・司会　石川英二（学原30）

１．名誉会員の推薦

本会の運営に多大な貢献をいただいた下記の2名の会員を、名誉会員に推薦いたしました。
本告 光男氏(専通22)前中部支部長、現副理事長
鈴木 鐸士氏(学機39)前理事長

２．多賀工業会新役員

平成14年6月9日

（順不同・敬称略）

名誉会長	工学部長　安久　正紘		
理事長	村野井　徹夫(学電40)		
副理事長	本告 光男（専電22）	渡辺 益男（専精19）	鶴田 浩一（学電42）

舛井理事長あいさつ要旨

いま大学教育に改革が求められています。工学部としては、新しい試みとして、SCS（Space Collaboration System）を導入し、宇都宮大学－福島大学－茨城大学の間で、また筑波大学－茨城大学の間で、それぞれ通信衛星を利用した単位互換制度をスタートさせています。

理　事(51名)　　○印:常任理事

選出支部	新　理　事	備　考
千葉県	○三弊 正人（専機24）	
	税所　裕（学金28）	
	大和田 武義（学電32）	
関　西	○伊東 速水（学化37）	
	及川　紘（学金38）	
	伊勢山 宏（学化40）	
埼　玉	○原田 昭平（専機23）	
	宮武　浩（専機25）	
	野口 恵伺（学機30）	
水戸勝田	○内山 岩男（学電30）	
	小室 敏之（学機30）	
	神部　隆（短電33）	
静　岡	○上岡　智（学機35）	
	沼田　誠（専電25）	
	寒風澤 毅（学機41）	
東　京	○渡辺 益男（専精19）	
	幸道 貞一（専通22）	
	近江 義勝（学電28）	
	鈴木 日出男（学原30）	
	溝口 知昭（学機32）	
鹿　行	○石橋 喜代雄（教電25）	
	竿代 武彦（学機43）	
	川浪 英靖（学金43）	
栃木県	○小沼 新作（学機30）	
	玉木 健三（教電24）	
	植竹 一郎（学電41）	
いわき	○高橋 不二男（教機22）	
	草野 明彦（専機22）	
	小幡　勲（学電35）	
仙　台	○大原 善助（専通22）	
	矢沢 藤一（学電28）	
	渡部　晃（学電39）	
中国四国	○長沼　静（学金38）	
	野口 正夫（専電25）	
	高村 正和（学電42）	
中　部	○廣木 守雄（学金32）	
	本告 光男（専電22）	
	中原 宗文（学機34）	
	寺門 行彦（学金39）	
九　州	○黒沢 準一（学原28）	
	金田 耕一（学機32）	
	寺田 孝雄（学機37）	
日立総合	○樫村　観（専通23）	
	川上 和夫（専機20）	
	見沢 典雄（専電23）	
	軍司　貞（学機33）	
	磯崎 公郎（学原34）	
本　部	○出羽 宏視（学精41　総務）	
	塩幡 宏規（学精45　会報）	
	谷川 邦夫（短電45　名簿）	
	立川　力（短機46　会計）	

監事(2名)

選出支部	新	備　考
千葉県	渡辺 銀市（短電35）	
	齋藤 保夫（学化41）	

本年は、東海村に文科省高エネルギー加速器研究機構（KEK）と日本原子力研究所との共同プロジェクトとして、中性子線を利用する世界一高性能の大強度陽子加速器が設置されるのを機会に、大学院理工学研究科を改組します。その一環として「フロンティア２１原子科学専攻」を文科省に申請中です。

これによって期待される研究成果としては、次のようなものを考えています。

1．超高密度磁気記録材料の開発
2．高温超伝導体磁気構造の解明
3．リチウム電池の解析・改良
4．蛋白質の構造を解析し創薬に役立てる
5．核変換技術の確立（放射性物質の変換）
6．素粒子の研究

会員の皆さんのご支援とご協力により、無事３ヵ年間にわたる理事長としての職責をつとめることができました。会員はじめ関係各位の皆さんに心からお礼申し上げます。また新任の村野井理事長に対しても、私同様のご指導とご協力を賜わりますようお願い致します。

原田埼玉支部長あいさつ要旨

今回、埼玉支部が本部総会の受け持ち当番となりましたので、支部総会と本部総会を一緒に開催することにいたしました。

会場は、本部総会が全国支部から多数の会員が参加されるので、交通の便がよく、わかり易く、有名な場所ということで、一昨年5月にオープンしたさいたま新都心（旧国鉄の大宮操車場跡地）に新築された簡易保険総合健康増進センター内の「ラフレさいたま」としました。この近くにはさいたま「スーパーアリーナ」がありますので、時間がありましたら、話しのタネに見て行かれたらよいと思います。

村野井新理事長あいさつ要旨

このたび、はからずも理事長に選出され、責任の重大さを痛感しております。私は舛井前理事長の後を引継いで行く積りでありますので、会員の皆様には前理事長同様のご指導はもちろんのこと、特段のご支援とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

私としては多賀工業会会報の充実をはかり、ホームページにアクセスしたら、工学部の様子がすぐわかるようにしたいと思っています。また、新時代に向け、微力ながら工学部の発展に寄与したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

講演会「大学新時代」の要旨

講師　茨城大学　学長 宮田武雄氏

宮田学長は大学新時代を①大学をとりまく環境の変化、②大学力、③大学新時代への対応、の3つに分けて次のように語った。

①大学をとりまく環境の変化

18才人口減少（少子化時代）に伴う大学教育需給バランスの逆転が想定される。つまり18才人口が減少するのに、大学が過剰時代になってくる。

一方で大学評価とアカウンタビリティが進み、実力本位時代になる。

必然的に大学（国立大学）構造改革の検討（方針）が出てくる（H13年6月）。

②茨城大学の大学力

国立大学の総合性から見て99大学中30位にあり、志願者倍率も6倍を堅持、注目される研究実績も上位、地域貢献や産業貢献への取り組みも10位に入っている。大学の規模においては、医学部がないだけで、99大学中24番目に多い学生の教育を担っている。

③大学新時代への対応

本学の目指す大学像は、「高度の専門的な職業人を養成する、地域性と総合性を持つ大学」である。

「高度の専門的な職業人の養成」とは、専門分野ごとに必要とする専門家の学位レベルが異なるごとにきめ細かく対応し、それぞれの分野が必要とする学士、修士、博士のそれぞれレベルの人材を、学生と社会の要請に応じて育成することである。

「地域性」とは、全国性や国際性を視野に入れつつ地域の学術文化拠点となることであり、「総合性」とは、本学の有する教育研究の総合力を発揮するという意味である。

むすび

茨城大学は近未来に向けて、存在意義と存在感を高め、この地域における中核大学として機能し続ける。そのためには、大学の基本である良い教育・良い研究を着実に実行し、実績を積み重ねつつ、その状況や成果を積極的に発信することに加え、本学の知恵を結集し、近未来社会における魅力的な大学となるための施策を、果敢に推進する、と結んだ。

本部と埼玉支部合同で懇親会

会場を「ラフレさいたま」4階ホールから3階の「桜ホール」に移し、本部と支部合同の懇親会を、石川英二（学原30）副支部長の司会により始めた。

乾杯の音頭は、最年長の林義雄氏（専原16）が取り賑やかに開宴しました。会員同志がお互いに旧交をあたため合い、歓談し、懇親を深めました。宴たけなわとなった頃に大学校歌、多賀工専校歌、吼洋寮の寮歌・逍遥歌の合唱が行なわれ、大いに宴が盛り上がった。

中間あいさつは柳田裕美氏（専精19）が行ない、引き続き中締めを飛田光正氏（学機35）が音頭をとり三・三・七拍子で締めた後、16時過ぎ石川英二氏の閉会の辞で無事終了しました。

（編集担当T.S記）

第2回多賀いちょう会ゴルフ大会

幸道 貞一（昭22通信）

昨年11月22日に東京支部として、初めてゴルフ大会を開催し成功裡に終わりました。今年も初夏の頃を予定しましたが、幹事の個人的事情で伸び伸びになっていました。いよいよ、年も押し詰まった12月12日に決めて10月12日に参加者を募集しました。昨年より1組多い16名の申込みがあり、11月16日に組合せを決めて皆さんに通知しました。いちょう会の発起人で、名付け親である鈴木日出男さんが、ネパールから帰国して参加する予定でしたが、家庭の事情で欠場となり残念でした。当日ま稀に見る好天に恵まれ微風快晴で、会場である小田原城カントリーのコースからの相模湾の海景色が綺麗でした。優勝は山崎氏（昭28電）、ベスグロは白土氏（昭24機）で2年連続です。（昨年93、今回91）。表彰式も懇親会も和気藹々のうちに終わり、お互いの親睦を深めることが出来ました。

（参加者16名）

1組　幸道貞一　22通　石川英二　30原　桜井　衛　38機
　　兼子八郎　38電
2組　佐藤喬太郎22機　山崎恵三　28電　山口宣之　35機
　　北島正保　39機
3組　難波靖治　23機　佐藤　馨　33電　大原祥生　38機
　　小林章夫　39機
4組　白土四男　24機　玉川信二　28電　田北嵩晴　37電
　　佐藤幸一　38機

		グロス	ハンデ	ネット
優　勝	山崎恵三（28電気）	93	21.6	71.4
準優勝	山口宣之（35機械）	93	21.6	71.4
三　位	小林章夫（39機械）	96	24	72

小ロットから承ります。
info@daikyo-print.co.jp
大協印刷株式会社
〒110-0016
東京都台東区台東2-4-14　TEL/03-3837-5291 FAX/03-3837-5293

東京支部囲碁同好会その後の推移

東京支部囲碁同好会

平成12年2月に囲碁同好者4名が集い、棋力向上と親睦を計ることを目指し、第1回囲碁大会を開催して以来、回を重ねるごとに同好者が増え、現在16名になっております。大会は毎年2・5・8・11月の第2土曜日11時開催とし、場所は日本棋院東京本院としております。対局は点数制を採用し、1局ごとの勝敗により1点ずつ増減点する方式で、その点数で段級位を表示しております。その段級位の基準点は初段を110点として、1段級上下するごとに10点ずつ増減点するシステムです。第9回大会は2月9日（土）に開催され、14名の参加があり、成績は下表のとおりでした。

氏名背番号	段級点数	1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	5回戦	勝／敗
山下正明①	六段163	②－163	③●162	④○163	⑤●162	⑥○163	2／2
田口嘉男②	五段153	①－153	⑤○154	⑥○155	④●154	③○155	3／1
小室秋生③	四段146	④●145	①○146	⑤●145	⑥●144	②●143	1／4
小室哲夫④	四段145	③○163	⑥●145	①●144	②○145	⑤●144	2／3
照沼　清⑤	四段140	⑥○141	②●140	③○141	①○142	④○143	4／1
関　英雄⑥	四段137	⑤●136	④○137	②●136	③○137	①●136	2／3
小白井和⑦	三段128	⑧●127	⑨●126	⑩●125	⑪●124	⑫●123	0／5
田崎耕八⑧	二段122	⑦○123	⑩○124	⑨●123	⑫○124	⑬●123	3／2
高田丈夫⑨	二段121	⑩○122	⑦○123	⑧○124	⑬○125	⑭○126	5／0
桜井　衛⑩	二段120	⑨●119	⑧●118	⑦○119	⑭○120	⑪○121	3／2
石川英二⑪	二段118	⑫－118	⑬●117	⑭○118	⑦○119	⑩●118	2／2
幸道貞一⑫	初段113	⑪－113	⑭●112	⑬○113	⑧●112	⑦○113	2／2
佐藤　馨⑬	1級　99	⑭○100	⑪○101	⑫●100	⑨●　99	⑧○100	3／2
近江義勝⑭	3級　80	⑬●　79	⑫○　80	⑪●　79	⑩●　78	⑨●　77	1／4

（注）－印は対局なし・表中の段級位は現在の段級位

毎回大会終了後は、会場近くの料理屋で懇親会を行い、杯を傾けながら楽しい一時を過ごしております。参加希望者は奮ってご参加下さい。現在の会員は次のとおりです。

20専機 宮木　敏夫二段　22専通 幸道　貞一初段
28学機 関　英雄四段　28学機 小白井和典四段
28学機 高田　丈夫二段　28学電 近江　義勝３級
29学金 照沼　清四段　30学原 石川　英二二段
32学電 小室　秋生四段　32学電 高橋　武雄二段
32学電 田口　嘉男五段　32学電 田崎　耕八二段
32学電 山下　正明六段　33短電 佐藤　馨１級
36学金 小室　哲夫四段　40学化 田中榮太郎四段

（注）段級位は入会時の段級位

連絡先　〒178-0065 練馬区西大泉3－25－10
山下正明（昭32電気）
TEL・FAX（03）3922－2143

入会のおすすめ

このたび東京支部写真同好会を発足する予定です。年2回撮影会を開催して、総会時に作品展示会を行なう予定です。

講師には斎田和夫さん（28機械）を交渉中です。

会員の皆さんが多数ご入会くださることを願っています。

連絡先
〒364－0035
北本市西高尾1－234
鈴木日出男（30原動）
TEL048－592－2889

平成13年度年会費納入者

（平成13年4月1日～14年3月31日まで）
（敬称略、順不同）

16年機　大矢 純一
16年機　長尾 和愛
16年機　森本 裕
16年原　小笠原 正視
16年原　小川 義夫
16年原　林 義雄
16年電　沢村 武男
17年機　岡崎 幸晴
17年機　大野 三知雄
17年精　足立 高嶺
17年原　久米 武男
17年原　渡辺 幸男
17年原　鏑木 正
17年原　小泉 保郎
17年金　飯島 一昭
17年金　川合 泰也
17年金　田辺 良美
17年金　坪能 進
17年金　依田 連平
17年電　小林 幹
17年金　鈴木 敏
18年機　山本 栄治
18年機　小松 宅男
18年機　宮崎 至誠
18年金　市島 健男
18年金　山田 実
18年精　立枝 茂男
18年精　鈴木 保光
18年電　関根 宗一
18年電　八角 方二
18年電　北条 英雄
19年機　大和田 光徳
19年機　土屋 敏雄
19年機　平山 光信
19年原　川尻 悦三
19年原　栃木 二郎
19年原　藤本 勲
19年精　小泉 正男
19年精　柴 敏夫
19年精　橋本 良夫
19年精　柳田 裕美
19年精　渡辺 益男
19年精　岡部 萌生
19年金　大鷹 浩介
19年電　関口 利男
19年通　酒井 忠光
20年機　岡本 公夫
20年機　吉成 元伸
20年原　海老原謙次郎
20年原　友保 伊弘
20年精　山田 初太郎
20年金　前田 直明
20年電　乙黒 正春
20年電　柴 英雄
20年電　柴田 信夫
20年電　竹内 靖夫
20年電　都築 久一
20年電　堀毛 一彦
20年通　石坂 陽之助
20年通　山本 杢兵衛
20年金　前田 英一
22年金　塩田 信雄
22年金　沼 鶴一
22年金　土居 浩一
22年電　野坂 賢司
22年通　幸道 貞一
22年通　谷口 貞作
22年通　中山 淳二
22年通　平林 立
22年通　前田 豊昭
22年通　田中 徹
22年通　中村 弘
22年通　石井 貞雄
22年通　丸川 武志
22年通　今井 俊夫
22年舶　石井 清＊
22年原　石川 義男
22年機　立花 浩
22年機　富山 栄
22年機　梅田 政夫
23年機　難波 靖治
23年機　谷中 広
23年機　乗 智成
23年機　向芝 新市
23年機　照沼 美知夫
23年原　内田 昭三
23年原　藤原 健之輔
23年原　広田 徳蔵
23年原　名島 竜雄
23年金　簑田 栄
23年金　山崎 義一
23年金　村山 昭平
23年電　小林 猛
23年電　塩野 譲
23年電　保坂 昭三
23年通　荒川 宣夫
23年通　大木 康夫
23年教電　斎田 耕平
23年教電　千野 吉治
24年機　白土 四男
24年通　戸木 礼一
24年通　海老原 和
24年精　鳥山 尚利
24年精　平木 康一
24年舶　飯野 二郎
24年舶　小峰 弘
24年舶　杉山 六郎
24年教電　浦井 猛
24年電　白石 寿男
24年電　前川 信雄
25年原　忍田 邦夫
25年精　京野 五一
25年電　村山 錦右
25年電　塩田 昭三
25年電　高橋 清
25年機　宮本 長寛
26年原　渡邊 貢
26年原　永山 正美
26年精　関内 正
26年原　藤本 史郎
26年金　有賀 久
26年金　葛目 義郎
26年通　菊池 玲司
26年舶　井坂 孝
28年電　藤田 史郎
28年電　玉川 信二
28年電　稲見 孝
28年電　中原 太平
28年電　橋本 久美
28年電　大森 通
28年電　近江 義勝
28年機　小白井 和典
28年機　坂場 昭二
28年原　山口 茂男
28年原　戸島 日出男
29年機　雨沢 道雄
29年機　今村 純一
29年機　藤井 俊祐
29年原　大久保 半吾
29年原　奥野 真治
29年金　照沼 清
30年機　松沢 勝海
30年機　佐藤 久弥
30年機　田口 忠夫
30年原　石川 英二
30年原　鈴木 日出男
30年電　米沢 潤
30年電　木村 好延
30年金　三本木 武
30年金　黒沢 正蔵
31年機　新田 和夫
31年機　横山 亨夫
31年機　高橋 義博
31年原　山崎 慎一郎
31年電　藤川 俊明
31年電　葛西 四郎
31年金　石川 量大
31年機　川又 俊夫
32年機　平沢 正一
32年機　木村 敞一

32年機　溝口 知昭
32年機　柴田 勇治
32年電　小室 秋生
32年電　山田 俊男
32年電　田崎 耕八
32年電　山下 正明
32年原　鳥羽 宏
32年原　榊原 康夫
32年原　矢野 睦男
33年機　中谷 清
33年原　吉久保 節男
33年原　田代 日出夫
33年原　山崎 勝雄
33年電　飯田 勝二
33年電　佐藤 馨
33年電　伊藤 誠二
33年金　三浦 陽
34年機　藤田 邦男
34年原　岩崎 昌三
34年電　高野 史雄
34年電　森田 俊夫
34年電　結城 祐
35年機　山口 宜之
35年電　星 敏彦
35年電　佐々木 三男
35年化　飛田 孝雄
36年機　柏木 尚
36年機　松本 延四郎
36年機　森永 隆宏
36年機　林 輝
36年機　笹生 右
36年電　岩橋 靖雄
36年電　田尻 仁一
36年電　橋本 正直
36年電　小宅 仁
36年電　佐川 文男
37年機　宮沢 信夫
37年機　森 秀一
37年電　西川 正登
37年電　田北 宗晴
37年金　橋本 善巳
37年金　篠原 康祐
37年化　阿部 徳治
37年化　寺門 紘
38年機　大原 祥生
38年機　大原 節
38年機　駒場 方耀
38年機　三上 秀彦
38年機　佐藤 孝一
38年機　牧山 永三
38年化　高木 二郎
38年化　矢部 功一
38年電　今橋 冨美男
38年電　兼子 八郎
38年電　小林 渡
38年電　広瀬 行一＊
38年電　梶山 国男
38年電　矢島 国男
39年機　佐川 六郎
39年機　筧 逸男
39年機　小林 彰夫
39年機　須藤 和英
39年機　溝口 香織
39年機　持田 幸武
39年機　北島 正保
39年機　和田 由紀夫
39年電　磯崎 洋子
39年電　大原 広哉
39年電　黒崎 貞之
39年化　森藤 武
40年機　市村 英機
40年機　熊倉 通
40年機　栗原 宏一
40年機　宮崎 洋和
40年機　高野 隆明
40年機　菅谷 忠雄
40年電　山崎 輝行
40年金　松本 二郎
40年精　大泉 雅晴
40年化　田中 栄太郎
40年化　鈴木 勉
42年機　菅谷 禎男
42年電　浜野 紘一
42年精　下ノ村 勇
42年金　小園井 健
42年子　佐藤 将彦
43年電　皆川 誠
45年電　永木 利夫
46年電　狩野 守
47年精　山内 弘
52年精　飯淵 敏雄
53年電　水島 好彦
53年精　中川 寛
57年機　小林 裕一
平4年情　秋山 英機
平8年院　東 学

合計255名

＊印は5年間の前納者です。

編集後記

世相はデフレ、政治不信、疑惑、リストラなどで不安だらけのこの頃ですが、会員の皆様方のご協力により東京支部会報第５号を発行することが出来ました。厚くお礼申し上げます。

今回から、新たに「支部めぐり」をシリーズで掲載する企画を立案し、始めに千葉支部を掲載いたしました。

また東京支部会報の表紙写真は、東京都および神奈川県の名所を写真で紹介することとし、今回は、東京都豊島区巣鴨の「とげぬき地蔵」にしました。次回は神奈川県の名所を予定しております。元気の無い世相を忘れさせ、会員相互の絆を強くする会報になるよう編集担当者一同努力して行きたいと考えております。

編集担当委員

鈴木 日出男（昭30学原）
三本木 武　（昭30学金）
山崎 慎一郎（昭31学原）
溝口 知昭　（昭32学機）
大原 節　（昭38学機）

東京支部会報〔第5号〕

発　行　平成14年8月1日
発行者　渡辺 益男
東京都豊島区池袋4-4-8
（株）渡辺建築事務所内
TEL　03-3987-1946（代）

多賀工業会東京支部総会々場

ご婚礼・ご宴会・お写真

【会議・美容・着付け
出張パーティー】

パンフレットをお送り致します。

東条インペリアルパレス

半蔵門 東條會館 ☎3265-5111

〒102-8525 東京都千代田区麹町1-12

K.K. 渡辺建築事務所

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-4-8

TEL 03-3987-1946 FAX 03-3985-3433

代表取締役 渡 辺 益 男（昭19専精）

設計した主な顧客

（官庁）	（民間）
東京都庁	本田技研工業（株）
各区役所	信越科学工業（株）
埼玉県庁	日本マタイ（株）
川口市等	トステム（株）
その他	その他

建築設計監理
（コンサルタント）

著書 工場建築デザイン
（日刊工業新聞社）
平成7年5月出版

■決め手はパテント！

葛西・糟谷特許事務所

弁 理 士 葛 西 四 郎（大学電気 31年卒）

〒105-0004 東京都港区新橋 6-6-9 岡田ビル4階

☎ 03-3438-1618 FAX 03-3438-1619

（事業内容） 出願・審判・判定・鑑定・訴訟・その他技術・法律上の新規・困難な問題にも創造的に対処することが出来ます。